

メディアワールド

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

～タブレット端末を効果的に利用した授業デザイン～

部会研究

〈授業デザイン部会〉

実践提案 近藤 睦 先生（港北小学校）
第3学年 国語「3年4組妙蓮寺タウン情報 その4」

〈スキルアップ部会〉

実践提案 原田 幸太 先生（長津田第二小学校）
ICTを活用した理科学習

平成28年度 5月号

[発行]

横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚教育研究部会
会長 田中 芳夫

5月11日（水）、西公会堂にて各部会による研究が行われました。

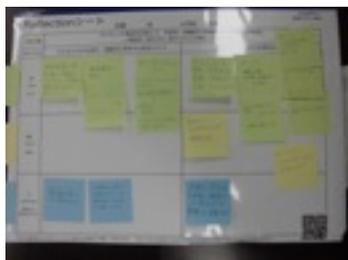
〈授業デザイン部会〉

社会科、総合的な学習の時間などから単元を構成され、本時では国語の「書くこと」にあたる部分を提案されました。

探求のプロセスをスムーズなものにするために、実社会との関わりをもたせた活動展開や、「妙蓮寺のまちのよさを広げる」という単元を通した目的意識と「もっと多くの人に」と広がる相手意識をもたせることを大切にされました。これまで資料収集・保存・整理・共有・Web検索などでタブレット端末を活用していた経験から、今度は作品を作りたいという思いを自然にもち、Webページを作るといった活動につながられました。

質疑応答の後、研究の2本の柱である「子どもたちが主体的・協働的に探求する単元づくり」と「タブレット端末の効果的な活用」の視点から、どう単元づくりをするべきか討議しました。各グループ リフレクションシートに整理しながら検討しました。

最後には能見台小の平野大二郎先生より「今回の実践は論点整理で示された、育成すべき資質・能力を具現化した実践だった」と指導講評をいただきました。年間を通したカリキュラムマネジメント、地域にどっぷり浸かった教材研究、子どもを信じ問い返し続ける距離感、日常的に



使用する中でのタブレット端末の活用という4点が今回の実践の肝であったという話がありました。

〈スキルアップ部会〉

5年の理科、「魚のたんじょう」の授業を中心に、学校にあるICT機器を生かした学習について提案されました。

単元の中で「調べた生き物をすぐに共有化を図れる学習にしたい。」という思いでICT機器を活用されました。今回の理科の学習では「iPad mini」、TVにHDMIで接続して表示することができる「電子顕微鏡」、「Wi-Fi Direct機能があるプリンター」等を使用されました。学習課題に対する意欲が高まった、細部まで観察できた等のメリットがある一方、台数が限られた中でのタブレットの使用になる、Wi-Fi Directによる印刷に時間がかかる等のデメリットもあったということでした。

理科以外での取り組みも紹介していただき、PMIシートを用いてグループ討議を行いました。タブレットや電子顕微鏡の使用や校内で広げる方法、USBマイクروسコープ等関連する他の機器についても討議されました。

指導講評は森の台小学校の田中公明校長先生よりいただきました。ICTを使うメリットの一つに共有化のしやすさがありますが、ただ見せるだけでなく見せることで意欲に結びつくような仕掛けが必要であり、そのためにはICT使用のメリットを理解したうえで、どう子どもに使い方を伝えるかを考える必要があるという話がありました。



(研究会HPはこちらから)

研究会HP <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/enkyu/es-ict/>

(文発責 仏向小学校 長崎 伸也)